



仙台市立 北仙台 小学校



森にひろがる、未来へのハーモニー 仙台市立北仙台小学校 水の森合奏団

テーマ「温故創新 | 我が校の推し活」
昭和62年に結成された水の森合奏団は、県内や全国の大会にて高い評価を受け、昨年3年連続・4度目の「仙台市教育功績者」の表彰を受けた我が校自慢の合奏団です！



顧問の声

水の森合奏団は現在、3年生6名、4年生7名、5年生6名、6年生3名の計22名で、平日の朝と土曜日に活動しています。

「1年生を迎える会」や「音楽発表会」などの学校行事のほか、今年度からは吹奏楽スタイルで夏のコンクールに出場し、県大会まで進むことができました。市民センター祭りなど地域のイベントでも演奏する機会を頂けてとても嬉しいです。

6年生を中心に挨拶やミーティングをして自分たちで活動を進められるよう頑張っており、これからも感謝の心を持ち、愛される合奏団を目指していきます。

(令和7年度顧問 関川 落代 先生)

保護者の声

保護者会では先生方と一緒に、子どもたちのお世話や譜読みのお手伝い・楽器演奏指導など様々な場面で、団員の一人のように活動に参加しています。

コンクールでは子どもたちと一緒に嬉し涙や悔し涙を流し、地域のお祭りや学校行事では共に観客席から演奏を楽しんでいます。

小学校3年生から6年生というわずか4年間ですが、子どもたちの成長を間近に体感できる素晴らしい機会に感謝し、これからも活動を支えていきたいと思っています。

(令和7年度 保護者会)

卒団員の声

水の森合奏団では、継続することの大切さを学びました。入団当時に楽器を演奏する技術が全くなかった私は、先輩や先生方のご指導の下、たくさん練習しました。

苦しい時もあったけど、続けることで上達し今では他の団体で活躍できるようになりました。水の森合奏団は色々なことを学びながら、演奏の喜びを感じられる素敵な団体だと思います。

(令和4年度 卒団員)

楽譜の見方も楽器の扱い方もわからない自分に、先輩や先生方は優しく丁寧に教えてもらい辛い時には励ましてくれました。

おかげで今では楽器を演奏することがとても楽しく、後輩に教えられるようにもなりました。楽器を通じてコミュニケーションを学ぶことができ、入団して良かったと思います。

(令和元年度 卒団員)

主な受賞歴

平成8年 こども音楽コンクール東北大会 最優秀賞 | 平成10年 全日本吹奏楽コンクール東北大会 金賞、全日本小学校バンドフェスティバル 優秀賞、全国学校合奏コンクール全国大会 優良賞 | 平成13年 全日本吹奏楽コンクール東北大会 金賞 | 平成14年 東日本学校吹奏楽大会 金賞 | 平成28年 全日本小学校バンドフェスティバル東北大会 金賞 | 令和4年 全日本小学生バンドフェスティバル全国大会 銀賞、マーチングバンド全国大会 銀賞 | 令和6年 マーチングバンド全国大会 銀賞 | 平成11年・令和5・6・7年 水の森合奏団 仙台市教育功績者 表彰

二代にわたって見守りつづける おはようおじさん



朝の登校時、校長先生とともに交通安全の横断旗を手に、子どもたちの通学を見守ってくれているのが、瀬野尾 俊英 (せの おとしひで) さんです。子どもたちからは、親しみを込めて「おはようおじさん」と呼ばれています。

さまざまな地域活動に携わっている瀬野尾さんが「おはようおじさん」として活動することになった背景には、「初代おはようおじさん」こと、高橋 盛人 (たかはし もりと) さんの存在があります。

瀬野尾さんと高橋さんは、交通指導隊や消防団で長年にわたり活動を共にし、プライベートでもお酒を飲み交わすほどの親しい関係でしたが、令和5年5月に高橋さんが急逝。瀬野尾さんは地域の仲間たちの後押しも受けながら、高橋さんの志を継いで「二代目おはようおじさん」として活動を始めることを決意されました。

「いま、何時？」と聞いてくる子どもたちとのやりとりや、その笑顔に元気をもらっているという瀬野尾さん。その一方で、高学年になり少し照れくさそうに、挨拶を交わさず通り過ぎていく姿には「以前のよう」に元気に挨拶してくれたらうれしいな」と少し寂しさを感じることもあるそうです。

毎朝、たくさん子どもたちが「おはようおじさん」と笑顔でハイタッチしながら登校していく姿に、子どもたちだけでなく保護者たちも、安心と感謝の思いを抱いています。



合言葉は“子どもたちのため” お父さんの会 (ダディーズ)



北仙台小学校には、児童の父親たちが集まって活動する「お父さんの会 (通称：ダディーズ)」があります。2012年頃に活動をスタートし、現在(2025年10月時点)は18人の有志メンバーを中心に、多くの方々の協力を得ながら、子どもたちに向けたさまざまな取り組みを行っています。

昨年度から始めた、夏休みの校舎を使った「きもだめし」は特に好評で、今年度も約360名の児童や親子が参加し、大盛況となりました。当日はお父さんたちだけでなく、お母さんや卒業した中高生の兄弟姉妹も「おばけ役」として参加し、みんなで力を合わせて子どもたちに特別な夏の思い出をプレゼントしました。

ここまでの道のりは決して順調ではなく、特にコロナ禍ではほとんどの活動を中止せざるを得ませんでした。「このままではいけない」という思いで工夫を凝らしながら開催したイベントにも、なかなか参加者が集まらない時期もありましたが、「子どもたちに楽しい時間を届けたい」という思いを胸に、活動を続けてきました。

メンバーの中には、PTAや町内会の役員などを掛け持ちしている方も多くいます。同じ学校の保護者同士という立場だけでなく、同じ地域に暮らす住民、近隣の町内会員同士としても、お互いに情報や意見を交換しながら、いずれ大人になっていく子どもたちに、母校や地元でのたくさんの思い出と、人とのつながりを残してあげたいと願い活動しています。

